



鏡石町に10回目の田んぼアートシーズンの到来!

2022かがみいし田んぼアート
窓から眺める絵本ももう一つの「図書館」

多彩なコンテンツで恩返しを!

祝! 2022全国田んぼアートサミットinかがみいし開催

今年のテーマは「つるのおんがえし」。2020年は感染拡大により中止したため今回が10作品目。絵柄はアニメクリエイターの湖川友謙さんがデザイン



田んぼをキャンパスに見立て、何種類もの色苗を植えわけることで大地に絵を描く田んぼアート。米の消費量が伸び悩むなか、農業で地域を活性化しようと30年前に青森県ではじまったこの取り組みは、現在全国100ヶ所以上に広がっています。鏡石町が田んぼアートを開始したのは平成24年。当初は前年度の実施予定でしたが、平成23年3月に東日本大震災が発生し、一年遅れのスタートとなりました。

「町を元気づけようと計画されたが、期せずして復興をめざす取り組みになった。町の面積の6割は農地で、震災後の農業に対する打撃は相当なものだったから、みんなが「何とかしなきゃいけない」という気持ちが強かったし、それが委員会メンバーや協力してくれる町の人たちの原動力になった」と実行委員長の和田さん。全国の実施団体が集まり全国サミットの開催地を決める場で、震災後10年の鏡石町の取り組みを熱く語り、「2022年全国田んぼアートサミットinかがみいし」の開催に繋がりました。



かがみいし田んぼアート実行委員長 和田久さん

鏡石町の田んぼアートは、唱歌「牧場の朝」を皮切りに、桃太郎や金太郎、かぐや姫、一寸法師など童話や童謡をモチーフにしてきました。スタートから10作品目、町制施行60周年の節目となる今年のテーマは、「つるのおんがえし」。7月の全国サミットで、復興を応援してくれた日本中の人たちに感謝を伝えるためのテーマとして選ばれました。

一方、実行委員会ではこれまで、アート作成以外にも関連するコンテンツを年々増やしてきました。キーワードは「観る・食べる・輝く・歩く」。田んぼアート。ほ場で育てた県産コシヒカリ「天のつぐ」をイベントで振る舞い、町内の小中学校や幼稚園に給食として提供。米粉は、地元のパン屋や岩農生によって菓子やパンが開発され商品化されています。稲刈り後の田んぼでは、子ども達が手作りしたLED内臓のペットボトルで絵柄を再現する「きらきらアート」を展開。さらに、この春からは田んぼアート観覧者にまちあるきを楽しんでもらおうと、まちなかに歴代の絵柄を立体化したミニ Monument がお目見えしました。

絵本をめぐるように物語を楽しもう

田植えから稲刈りまで、日に日に観え方が変わっていく田んぼアート。その変化を楽しむため何度も通うファンも多く、町内外から訪れる人は年間約3万人を超えます。

「鏡石町のほ場は段差があるのが特徴で、他の地域と同じ高さからの眺めでも、奥行きや広がりを楽しめる」と和田さん。今年使う苗は、例年より種類の多い6色10種類。品種の生長スピードが違うため、シーズン中は絵柄を崩さないよう草取りや色

の抜き差しなどの手間が欠かせませんが、その違いを逆手にとった「隠れデザイン」に出逢えるのもここならではの楽しみ。「隠れデザイン」は、半月前1か月前にはなかった新たな絵柄が浮かび上がってくる仕掛けで、たとえば、昨年のおむすびころりんでは8月中旬に2匹のネズミが出現しました。今年も田植えからおよそ1か月前が経過して、つるのおんがえしには、どんな物語が浮かび上がってくるのでしょうか? お楽しみに!

鏡石町に10回目の田んぼアートのシーズン到来! 2022全国田んぼアートサミットinかがみいし開催

鏡石町役場 産業課 仲沼 諒さん

10周年目をスタートさせた「かがみいし田んぼアート」ですが、地元農家さん、岩瀬農業高校など多くの皆様に支え続けられて、ここまで来たのだと改めて実感します。今年、「全国田んぼアートサミット」が開催される年でもあり、節目の年であると感じているので、逆にプレッシャーにも感じますが、観に来られた方が感動や喜びを感じていただけることを考えると頑張れますね。ぜひ、多くの皆様に来場いただき、鏡石町の田んぼアートを観て、米粉でできたシフォンケーキなどを食べて、「まちなか」を歩いて、鏡石町を楽しんで欲しいです。今年、そしてこれからもまだまだ、進化し続ける「かがみいし田んぼアート」をよろしくお願ひします。

測量チーム

岩瀬農業高校 教諭 正木進作さん
岩瀬農業高校は農業高校にはめずらしく測量も授業で扱っています。つるのおんがえしということで、とても細かく複雑な測量を行うため、地元の建設業の方やOBの方にも協力いただきました。ICTを活用した最新機器を用いてより正確により早く測量ができるようになりました。

岩瀬農業高校 環境工学科3年 安藤郁斗さん
3年生になってやっと、自分に田んぼアートに関わるの出番が回ってきました! 距離をあわせるための指示出しがとても大変でしたが授業でやってきたことを実践できたのでとても楽しかったです。

草野測器社 (岩瀬農業高校OB) 永山滉大さん
OBとして岩瀬農業高校にICTを活用した今の測量方法を教えています。高校生の頃は田んぼアートに関わる機会がなかったのですが、社会人になって関わることができてとても嬉しいです。

安藤建設工業 安藤利幸さん
かがみいし田んぼアートは町をあげての一大イベントです。よりクオリティが求められるようになった5年前から仕事でのスキルと経験をいかし、鏡石町建設業組合でも協力して測量しています。

育苗・田植えチーム

岩瀬農業高校 生物生産科3年 白石 葵さん
アートなので通常の田植えと違い、細かいところまで、手作業で植えるので大変ですが将来、農作物を作っていくたいと考えていたのでとても楽しいです。田んぼアートを通して全国の方に「米作りって楽しい」と伝えたいです。

岩瀬農業高校 教諭 赤崎直樹さん
毎年、苗の色数も増やしていき、より彩り豊かな田んぼアートになっています。実はもう来年の稲の種まきと色の出方の実験を進めています。高校生が一生懸命頑張っていますので、年々進化していく田んぼをぜひ見に来てください!

観る♪ かがみいし田んぼアートをめいっぱい満喫!

観覧シーズン: 6月中旬~10月上旬 見ごろ: 7月初旬~8月下旬

鏡石町図書館4階展望室
観覧日時
【6月・9月・10月】 9:00~17:30
【7月・8月】 9:00~18:30
【休】6~8月は無休
毎週月曜(祝日の場合は翌日)
※新型コロナウイルス感染症の影響等により変更する場合があります。



歩く♪

今年度から歴代テーマのかわいいモニュメントが登場!

▲「桃太郎」駅前バス停近く ▲「金太郎」鏡石一小前バス停近く

今年の図画! どうなるかお楽しみに♪

食べる♪

田んぼアート米の米粉を使った商品はパン工房 だまり、鏡石まちの駅かんからで販売。

ひか 輝る♪

きらきらアート。LEDを内蔵したペットボトルで、その年の絵柄を再現。ボトルは地元の小中学生や岩農生が将来の夢を託したメッセージカード入り。

7/28(木)「2022全国田んぼアートサミットinかがみいし」開催 ▶ 詳しくは次のページへ

